

都市生活生協支援

第7号

# 救援ニュース

1995.6.6

都市生活現地救援本部  
西宮市今津山中町9-9  
都市生活西宮センター内  
電話：030-618-1792

## 生協都市生活 それぞれの救援活動

西神戸支部副支部長 西野育子さんの話

### きっかけは炊き出し、そして行きつく先はトイレの問題

<sup>みょうだに</sup>名谷センターにおける初期の活動については、当時救援本部との連絡も付けられなかった状況で独自に活動を行ってきました。

この独自活動をはじめのきっかけは、私が関係している東灘区にある日本リサイクル市民の会の神戸支部へ連絡が入り、東灘区で炊き出しの材料が足りないというので、西宮センターから魚崎小学校へトラック一杯の野菜を届けてもらったのがスタートでした。ちょうど地震から一週間経った頃でした。その頃は、他の理事達は近くの中学校へ炊き出しをしたりして、それぞれが動き出していました。

私は、28日に長田ボランティアの方に入って炊き出しをしましたが、食べたら排泄の問題が生じます。トイレがあちこちでひどい状態だった、そこへ行ってくれということで、村野工業高校へ掃除に行きました。村野工業高校は指定避難所ではないのですが、50～60名の方が避難してきており、教頭先生も大分苦労されているようでした。

ボランティアの手が行き届かないから本当は避難所の人達が自立しなくてはいけませんが、指定避難所ではないということで、教頭先生は言いにくい様で、わたしたちがやったのですが、まずは救急の時のトイレの使い方という張り紙をして、掃除をやりました。村野工業高校は長田区の支所から歩いて5分というところで、行政の目が行き届いてもいいようなところなのに、衛生状態が悪いのでびっくりしてしまいました。ゴム手袋はあるけれど、トイレ用の洗剤がないので欲しいと言われて、救援物資が届くのを待ってられないので合成洗剤・消臭剤を買ってきて掃除しましたが、ひどい状態で、スコップで盛り上がっているのを取るようなことまでやりました。合成洗剤などを買ったお金は、西神戸支部がミルクカートンで貯めて置いたお金を使わせてもらいました。

### 新たなボランティアグループと出会いと拡がり

そのような活動を通じて長田ボランティアの方といろいろつながりができました。

三菱重工の労組とか東京からアミューズという会社が炊き出しに来ていました。地震の後2月後半から来ていて、この人達と親しくなって、こちらが炊き出しをするときはプロパンを担いできてもらったりして、何回か炊き出しを行いました。

私は、ボランティアの人達のバックアップ態勢が取りたいと考え、自分達で食材を担いでいったり、自警団の人達の防寒具を持ってきたり、行政とボランティアの網にひっかからないところで、何か出来ればいいな、と思ってやってきました。

最初は個人でやっていたのですが、そのうちにみんな集まってきて、週一回はどこで炊き出しをやるのか、連絡をしておおうということでセンターに集まって打ち合わせを行いました。

長楽小学校では2000食を用意しなければならないのでみんなで炊き出しをしたり、お年寄りのいる野中在宅福祉センターに給食の手伝いに行ったりしました。

また、洗濯ボランティアが2月13日から西区の主婦を中心に始まりました。これは蓮池小学校、長楽小学校、夢の台小学校、野田高校等の避難所で水は出ているけれど洗濯機が避難所に2台とか4台とかいう状態で、洗濯できても干し場はないし、干しても瓦礫のホコリがひどいので、洗濯ボランティアを行いました。

これは、週三回、月・水・金とやって、搬送は三菱重工労組の方がやってくれました。そして、被災者の方には非常に喜んでもらいまして、感謝の手紙を頂いたりしましたし、ボランティアの方も見ず知らずのお年寄りの下着を洗ってくれたり、一生懸命やってくれて、洗濯を通じてお互いに心が通い合ったと思います。

この洗濯ボランティアも3月31日時点でクリーニング屋さんが営業を始めたこともあり、被災者の方ももう大丈夫ということで撤退しました。全部で514世帯の洗濯を請け負いました。

### 復旧に向かって新たなボランティア活動が生まれる

いま、企画しているものは4月8日のチャリティーバザーですが、これは長楽小学校に来ていた自治労のボランティアが3月一杯で引き上げることや長田ボランティアの学生も引き上げるのに救援物資が余って処分に困っていたり、岡山県から学用品が2年分くらいもらって、フリーマーケットとか物資の交換を日曜ごとに開いたりして物資をはかしていたがそれでもかなり余っているという話を聞いて、残っている物資を全部頂いて、そのなかで選り分けをして、廃棄する物は廃棄をして、新しい物だけを安い値段で買ってもらって、それを義援金に回すという主旨で4月8日にチャリティーバザーをすることにしました。これに関しても日産から全部夕夕で物資を供出してもらったりしています。

また、これから予定しているものとしては、仮設住宅へのウェルカムパーティーをしようと、北区では理事会の了解がとれているようですが、西区はまだこれからといったところで、取りあえず雑巾とハンガーを集めて、仮設住宅を一軒一軒ま

わっているところです。学園都市では仮設には未だ入居していませんが、コミュニティプラザが地域にとけ込むということで、自治会・日産が子どもを集めて映画会をやるようなので、それから一緒に考えていきたいと思っています。

また、西区のなかでは、ボランティアのなかで知り合った西区女性会議に4月9日に行って、仮設住宅に対してのボランティアを組織しようという動きがもう一つ無いので、それへの呼びかけと、どんな人が入ってくるのか分からないと心配しているので、新しい住民とニュータウンの軋轢がないように、うまく付き合っていけるようにという呼びかけの会議をおこないますが、その中で私たちが参加できるようにであれば考えていきたいと思っています。  
(4月7日談)

(終わり)

### 被災組合員へのお見舞金 485名の組合員の方へ

全国の友好生協や生産者から寄せられたカンパ金を活かして、直接被災された組合員にお見舞金をお届けすることを決定し、申請を受け付けていました。6月1日現在、組合員本人が亡くなられた方1名、同居家族の亡くなられた方3名、家屋の全半壊者481名の申請となっています。それぞれの方には「お見舞金」をお手元にお届けしました。

カンパを寄せてくださった皆様、ありがとうございました。皆様の温かい救援のお気持ちを被災した組合員に届けさせていただきました。また、被災した組合員のみならず、全国のみんなが見守っています。悲しさやつらさにくじけずがんばって、ともにできることから力を出し合って行きましょう。

お見舞金の明細は下記のとおりです。( )内は6月現在の組合員数

支部名	組合員及び同居家族が 亡くなられた方	家屋が全半壊となられた方	
尼崎支部		61名	(510名)
宝塚支部		57名	(614名)
西宮支部	3名	191名	(974名)
東神戸支部	1名	123名	(582名)
北神戸支部		3名	(757名)
西神戸支部		8名	(959名)
南神戸支部		38名	(662名)

## 仮設住宅への支援始まる

前号でもお知らせしましたが、5/17(水) 尼崎塚口地区の<sup>わんだ</sup>椀田公園に建設された仮設住宅(42軒)への支援活動が取り组まれました。

当日は山菜おこわ、おはぎ、みそ汁の炊き出しと都市生活の消費材の青空市、さらに鉢植えの草花の販売とプレゼントをおこない盛況でした。特に尼崎にある重度身体障害者共同作業所「KTH」のご協力による観葉植物の販売、プレゼント(仮設住宅に住まわれている方を対象)はとても好評であり、地域の中の共同の輪が一段と広がっていくさざしを感じました。

この取り組みは、地震後の救援活動の方向性が日常での活動に変わりつつある中で、組合員の救援活動の中身が持続的かつ長期的な視野に立って、震災によって必要性が明確になった地域福祉に対する支援活動へと移行しつつあります。こういう意味で5/17(水)の尼崎支部「尼崎地域復興部会」として初めての活動はたくさんの方のうれしい出会いとアイデアがいかされました。この尼崎での出発は所を変えて5/26(金)の東神戸支部の組合員(RIC地区7名主催)による大規模仮設住宅への支援が行われました。

この救援青空市(復興青空市)に参加したお二人の組合員のレポートをお届けします。

### 盛況だった椀田公園での青空市交流会

尼崎支部地域復興部会部長 木村 薫子

雨が何日も続きやっとな晴れ間が見えた5月17日、塚口地区の椀田公園で仮設住宅に住んでおられる方々との交流会を尼崎支部の組合員や復興部員の協力により行うことができました。

この尼崎でボランティア活動ができることを、私はひそかに楽しみにしていました。というのも、震災で人々の関心が神戸や西宮に注がれる中、全半壊が3万戸といわれる尼崎が忘れられている様で、被害の大きさからいえば、仕方のないのかもしれないと思いつつも、心の中には少し淋しいものがあつたからです。

これを機会に色々思いが広がり、炊き出しと青空市、それに植木の販売などを予定、どれだけのことが出来るのか、どれだけの人たちが来てくれるのか不安もありましたが、まずは「やってみないとわからない」ということで第一歩を踏み出してみることになりました。

当日の組合員の方々の動きはとても活発で私の心配をよそに、大きなパワーとなってどんどん進められていきました。手際よくそれぞれの受け持ちをこなされていく様子を見てみんなが心をついにすれば、これからどんなことでもできる様で、炊き出しを配っていると、「どこの団体、どうしてこんな活動をしているの。」と質問される方も多く、用意していたパンフレットがすぐになくなってしまいました。



5月17日 梶田公園にて

た。改めて「都市生活」のつながりの大切さを実感させられました。

青空市もこれまでにないような売れ行きで、お野菜などは、すぐになくなり、楽しみにしていた人達をがっかりさせてしまったようです。予想以上の反応に驚きましたが、これからの活動に向けての、確かな手応えがあったように思われます。

植木は、地元の花屋さんKTH福祉事業所（関西のチームハンディキャップを乗り越えて）に協力をお願いして安く販売していただきました。仮設住宅の方々には、毎日の生活が、少しでも明るいものになるように、お知らせチラシにお花の引換券をつけて参加を呼びかけましたところ、多くの方がこられ、あれこれと楽しそうにお花を選んでいました。

これをきっかけにして私たちとの会話も弾み、洗濯機が壊れて困っている方に、使っていない洗濯機をさしあげることになりました。こんな短時間の間に、これだけの交流がもてるなんて、思いもよらないことでした。

今回の交流会は、準備に時間的な余裕がなかったにもかかわらず、私の無理な注文に応じていただき、思いどおりに行うことができました。これだけの活動への力を与えてくださった救済本部や友好生協の方々に感謝します。

これからも、人と人との交流を大切にして、次の活動を続けていきたいと思っています。

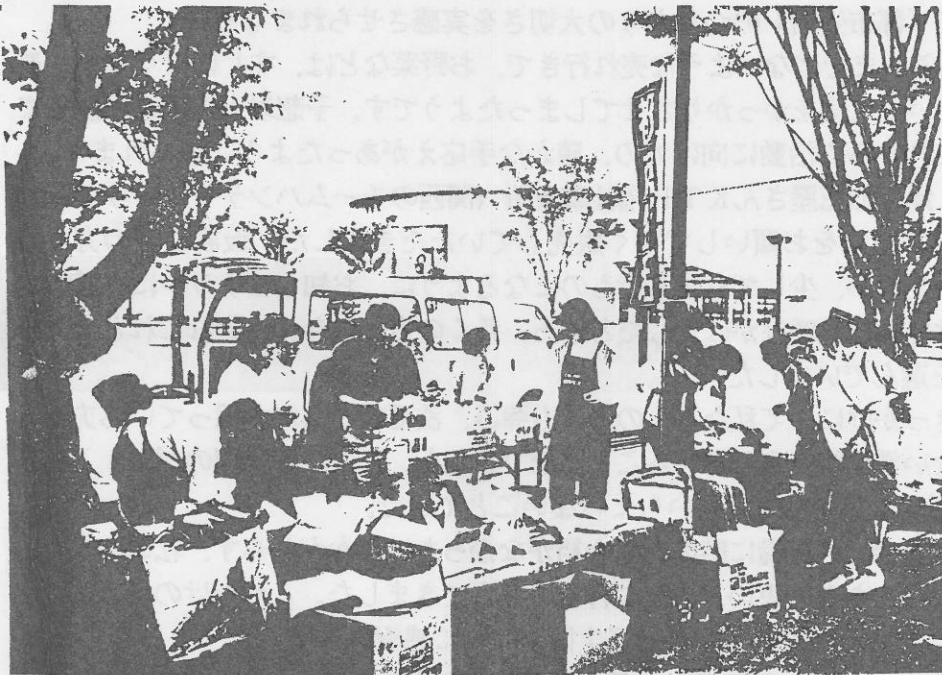
## 復興青空市を体験して 5月26日(金) in 六甲アイランド

RIC地区 山本 史子

今日は場所を六甲アイランドの仮設住宅のそばに移して、文字どおりの復興青空市としておこないました。お客様(?)の出足も好調で、野菜は開始30分ほどで売りきれとなりました。ただ交通事情の関係で無償でお配りしたかったわらび餅400人分の到着が青空市が終わった後となってしまい、仮設住宅まで行ってお届けに行くというハプニングもありましたが…。

現在、六甲アイランドには2000戸ほどの仮設住宅が島の北側と南側に建っていますが、買い物できる所はすべて島の中央に集中しており、仮設住宅からは遠くて不便という声が出ています。ですから、こういった青市で必要とされるものは、やはりじゃがいも、玉葱、人参などの重い野菜や、牛乳、卵、ハム類、砂糖、塩、醤油など日常よく使うもののようです。今回は特に野菜が少なく、せっかく来てもらっても「野菜がもうないの?」と不満をもらす方々もいて、申し訳ないなあと思いました。せっかく「復興青市」と銘打ってやるのだから、本当に必要とされているものをたくさん持っていきたいものです。次回はそういうところを本部の方と相談して行えたらと思います。

最後になりましたが、朝早くからお手伝いくださった方々に、心よりお礼申し上げます。



5月26日 六甲アイランドにて

### 地震救援ボランティア活動情報をお知らせください。

地震から5カ月を迎えようとしています。救援の活動も「炊き出し」などの救済活動から復興・創造のためのものになってきています。

災害に遭われた方も仮設住宅の生活に変わり、また被災地にとどまっている方も人や回りの環境も変わり、新たに困った問題が生じてきているものと思われます。都市生活の組合員の中で、今後はどのようなところで、どのような形で救援活動に取り組めばいいのか戸惑っている方もいらっしゃると思います。また、なにか自分のやれることはないかと考えている方もあるのではないのでしょうか。

そこで、救援本部では新たな状況に対応した救援体制をつくるために情報ネットワークが必要ではないかと考えています。みなさんから寄せられた情報、青空市で出てきた被災者の声などを救援ニュースに掲載していきたいと考えています。身の回りで今こんなボランティアをやっている。こんなことをやりたい。という情報があれば御紹介ください。



### 梅雨・夏期対策救援品募集！！

これから、じめじめした梅雨を迎えます。梅雨が終わるとすぐに夏がきます。仮設住宅では、外の水気や泥をシャッタアウトする方法がありません。せめて水気を持ち込まないような道具として、足拭きマットを青空市を開催したときにプレゼントしていこうと考えています。足拭きマットは、古くなったバスタオルを三つ折りにして縫っていただくものです。まずは近隣の友好単協の組合員のみなさんに協力をお願いしています。

また、夏場に向けて、冷蔵庫や扇風機などの電気製品やすだれやよしずなどの日除け用品など、暑さ対策用の道具もあわせて募集しています。

都市生活の皆さんにも後日募集の申込チラシを配布しますのでよろしくご協力をおねがいします。

## 現地救援本部新スタッフ紹介

しのはら ひろのぶ  
**篠原 弘信** (42歳) グリーンコープ連合

鷺野さんに引き続いてやってきたグリーンコープの助っ人部隊第2軍です。神戸へは、震災直後1月21日の日に水やジュース、パンなどを運んで10tトラックで一度駆けつけたことがあります。そのときは、まだ惨劇痛々しい時でした。今、被災現場を見て回って片付けが終わった住居跡をみると復旧の早さに驚かされます。しかし、生活用品が取り残された空き地をみると、そこに住んでいた人達は今どこで生活しているのだろうと心配になってしまいます。救援本部では、2週間の短い期間にどれだけできるかわかりませんが、現在グリーンコープでやっている広報の仕事を生かして、情報を媒介できるような体制をつくりたいと思っています。

よらた けん  
**町田 進** (49歳) 生活クラブ生協・神奈川

生活クラブ連合会より神奈川ユニオン総務部から派遣されてきました。2週間しかおられませんので、この機関誌が出る頃には消えてしまっていると思いますが、何かお役に立てればと言う気持ちだけは帰ってからもどこかで生かしていきたいと考えています。

気持ちだけで酒を飲んでいるだけで何もしなかったといわれないように、短期間ですが猫の手程度の役には立てればと思います。



### お詫びと訂正

前号記事の中で間違いがありました。謹んでお詫びし、訂正させていただきます。

- 1ページ2行目 西宮中央体育館→西宮中央図書館
- 3ページコラム1行目 尼崎市塚田地区→尼崎市塚口地区